

# 学級活動（１）指導案

4年3組 30名 指導者 沖園 良介

本実践は、以下の検証を行うものである。

- 自分たちの考え方を、学級掲示板や電子黒板を活用して視覚的に提示し、意見交流をさせる手段と個人と司会者グループが話し合いカードの活用で意見を交流させる手段は、話し合いを進める上で効果的であったか。

## 1 議題

31人の思いが詰まった世界に1つの学級旗を作ろう（学級活動（1）－ウ）

## 2 子どもの実態

### (1) 子どもの学級生活における実態

- 本学級の子どもは、4月当初、自分の思いをもって話し合いに参加することはできたが、それをどのように表現していくべきか戸惑う姿が見られた。
- 中学年の発達段階として、個人の主張が強くなってしまふことがあり、学級全員で取り組もうとする態度を高めていくことを課題としてもっている。
- 男女仲が良く、学習や行事等にも意欲的に取り組むことができ、学級目標や学級会名を決定する話し合い活動や小運動会での学年種目を経験する中で、自分たちで学級を盛り上げていくという喜びや一体感を共感することができた。
- 各グループに「曜日リーダー」を設けて、日頃からグループ活動を重視した学級経営を行うことで、全員にリーダーとしての役割を果たす機会をもたせることができ、全員学級全体を作り上げているという意識が見られるようになってきている。

### (2) これまでの学級活動の取組

#### これまで取り組んできた議題

- ・みんながいきいきとがんばる係活動を決めよう。
- ・自分たちの思いを込めた学級目標を作ろう。
- ・学級を作り上げる大事な学級会名を決めよう。

本学級では、一人一人が主役となり、大きく成長していきたいという願いから、第2回学級会をもち、「4年3組の種から31輪の花を咲かせよう。」という学級目標を設定した。第3回学級会では、学級活動における話し合い活動（「学級会」）を「のびろぐんぐん31のスマイルわかば会」と命名することで、学級会を自身と友達の思いを尊重し合える自治的な話し合いの場にしたいという思いを共有しながら、学級をスタートすることができた。

司会者グループは、「話し合い係」が中心となって構成し、輪番で役割を務めている。議題の収集については、学級に設置した議題箱による収集だけではなく、朝の会や帰りの会での呼び掛けを行ったり、時期に合った議題を係から提案したりする形で行っている。複数の議題がある場合には、時期や提案理由と学級の実態に照らし合わせながら、計画委員会を中心に学級全体に問いかけることで選定を行うことにしている。

司会者グループは、計画委員会の中で、論点がずれないように提案理由やキーワードを提示し、話し合いの柱を決定している。また、話し合いカードを用意し、学級の意見を回収し、話し合い活動までに修正を加えることで、意図的・計画的な話し合い活動の準備を進め、話し合いが充実したものになるように工夫している。

実践段階では、話し合い活動の後、実行委員会を組織することで、細かい計画に基づき実践へとつなげ、担当する係を決定したり、それぞれが実行委員の計画に沿って行動したりすることで、作り上げる喜びと、一体感を十分に味わえる活動にしてきた。

### (3) 話し合い活動における課題やめざす方向

本学級の子どもは、話し合い活動を日頃から授業の中で行い、練り合いの場やまとめ学習の場でグループ活動を行っていることもあり、話し合うことでより考えが深まることを実感してきている。また、心をつなぐ「あ・い・う・え・お」という共感的な言葉を日常的に使うことで、発言をしやすい雰囲気を学級内でつくり上げてきた。集団決定の場では、安易な多数決にならないように心掛け、多くの意見を生かすことができるように十分な意見の交流をめざそうとし

ている。課題としては、提案理由や学級の課題に基づいた話し合いを進めることができなかつたり、一人一人の発言の視点が異なつたりすることもあるため、議題の論点からはずれてしまうことである。今後、司会者グループとフロアーが同じ方向性で話し合いを進めていけるような手立てが更に必要であると考え。また、身近なことや、学級全体のことを意識した話し合い活動にしていくために、自分たちの楽しみや喜びだけにならないようにしたり、決定したことに対して長期的な取組へとつなげたりする手立てを子どもと一緒に作りあげていかなければならない。

### 3 議題について

5月2日に行われた小運動会に向け、学級目標を意識しながら学級全員で同じ目標をもち、体育科の学習や朝の体力づくりへの参加を通して、走り方の工夫や体力向上に取り組んだ。実際に小運動会では、一人一人が自分の目標に対して達成感をもつことができ、学級としてのまとまりが見られるようになるなか、学級のシンボルとなるものを作りたいという意見が子どもからあがってきた。そこで、話し合い係が学級に問い掛けを行い、一人一人の意見を掲示板に記入してもらい、意見を集約した。掲示板には、①学級キャラクター（5人）、②学級歌（11人）、③学級旗（14人）が出されたが、①については、キャラクター作成の係を作ること、学級旗の中に入れることができるということ、②については、学級のよいところをもっと知り、それらを歌詞の中に入れた学級歌を作りたいということ、今回は「学級旗」を作ること話し合いの議題に決定し、帰りの会で全体に報告した。

今回の議題は、個々で学級旗全体のデザインを作成すると意見が多くなるため、集団決定が難しくなると考え、計画委員会では、自分が旗に入れたい絵や文字を考えてくるように提案した。また、各グループではミニ学級会を事前にもち、それぞれの思いを交流させた後、グループで納得したものを持ち寄ることとした。今回の話し合い活動は、それぞれのグループの思いを交流する中で、学級全員が納得した学級旗のデザインを決める話し合いを展開していく。

### 4 指導にあたって

事前の活動では、学級旗は学級のシンボルであることを確認させ、全員が納得できる意見の交流を十分にとれるように話し合いの時間を設定することや、意見を比べる視点を明らかにした視覚的な板書や焦点化した進行について事前に計画委員会の段階で指導し、**司会者グループと共通理解の上で、話し合い活動の準備を進めていくようにする**。また、発言者が自信をもって思いを伝えたり、聞く側が共感的な態度で聞いたりすることができるように、これまでに適時、称賛を行ってきた。

話し合いでは、全体のめあてと共に、「発表する」・「聞く」・「認める」の3つの視点で個々のめあてをもたせることで、話し合いへの意欲的な参加ができるようにする。また、出し合う意見を、自分たちの思いや学級目標、提案理由と常に比べさせることで、話し合いが論点から外れていないかを意識させて展開できるように、司会者グループと進行状況を確認しながら進める。必要なときには、教師が論点のずれを修正するようにする。集団決定の場では、意図的に指名をして意見を引き出すことで、より多くの子どもの意見が込められた決定になるようにする。実際の活動では、実行委員を組織し進めていくことで、子どもたち自身で事後の活動や反省まで運営していけるようにしていきたい。

### 5 第3学年及び第4学年の評価規準

	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
事前	学級生活上の問題に関心をもったり、計画委員会の活動や話し合いの準備などに、意欲的に取り組もうとしたりしている。	議題について自分の考えをもち、計画委員会の運営や話し合いの活動計画について教師の助言を受けながら考え、準備している。	計画委員会の役割や話し合い活動の準備など、計画的な進め方を理解している。
話し合い	共感的な態度で、積極的に話し合おうとしている。	よりよい学級の生活づくりに向けて考え、教師の助言を受けながら考え、判断し、他者の立場に立って話し合っている。	
事後	決定したことについて、意欲的に準備や計画に取り組もうとしている。	決定したことや自己の役割を考え、協力し合って実践している。	決定したことについて、みんなで計画的に実践することの必要性や方法について理解している。

## 6 活動の流れ

	期日	活動内容	教師の手立て	めざす子どもの姿と評価方法〈 〉	
事前の活動	問題発見・選定	4/13	○ 第2回学級会 学級目標の決定 「4年3組の種から31輪の花を咲かせよう。」	○ 個々がどんな学級にしていきたいのかをそれぞれが発表していく中で、キーワードでまとめ、学級目標を決定することで、学級への所属感を高めるようにする。	<p>関学級内の諸問題に気付き、学級目標を達成するために進んで議題箱に議題を出している。 〈観察〉</p> <p>思「議題制定の4つの規準」に照らし合わせながら協議し、議題を選定している。 〈観察〉</p> <p>知議題提案日や回収日等を話し合い当日から逆算して考え、計画的・効率的な進め方を理解している。 〈観察〉</p>
		4/17	○ 小運動会の練習開始	○ 学級目標を基に、体力づくりに全員で取り組むことで、一体感をもたせるようにする。	
		5/2	○ 小運動会 ○ 子どもからの提案 ○ 議題の呼び掛け	○ 自分たちの努力した結果に対して振り返りを行うと共に、称賛することで、達成感と活動への意欲をもたせるようにする。	
		5/8	○ 第1回計画委員会 ・議題選定 ・選定結果の報告	○ 議題を選定する際には、提案理由の確認や学級目標と比較して、適切なものになるようにする。	
	実施計画の作成	5/9	○ 第2回計画委員会 ・提案理由と目標、話し合いの柱の設定 ・話し合いカードの作成 ・今後の話し合いに向けてのスケジュール確認 ・話し合いカードの配布 ・学級掲示板を活用 ・一人一人が考えを話し合いカードに記入	○ 話し合いに向けて、提案理由に沿った柱になっているか、また今後どのように進めていくか計画を立てさせる。 ○ 話し合いカードの記入には、提案理由や今回の話し合いの目標、学級目標を意識して行えるようにする。 ○ 学級掲示板を活用し、自由に意見を書けるようにすることで、視覚的に意見の収束を図ることができるようにする。	<p>思司会者グループが中心となり、提案理由と話し合いの柱の整合性、時間設定などを考えて計画を立てている。 〈観察〉</p>
		5/11	○ 第3回計画委員会 ・意見の集約・分類 ・話し合いカード回収	○ 話し合いカードから、意見を集約して把握したり、称賛したコメントを書いて返したりすることで、話し合いの焦点化を図ったり、意欲を高めるようにする。	<p>思様々な立場の人のことを考えた上での、自分の意見を書いている。 〈話し合いカード〉</p>
取組の共同化	5/14	○ 第4回計画委員会 ・話し合いのシミュレーション ・板書計画 ・意見報告 ・話し合いカードの配布	○ 話し合いの過程が分かるように、 <b>視覚的な配慮のある板書計画をつくるようにする。</b>	<p>思友達の意見を事前に集約、分類し、話し合いの論点を明らかにし、計画的な話し合いの準備を進めている。 〈観察〉</p> <p>思様々な立場の人のことを考えた上での、自分の意見を書いている。 〈話し合いカード〉</p>	
		○ ミニ学級会(各グループ)	○ <b>グループでの話し合い後、友達の意見を踏まえた考えを再度話し合いカードに記入させることで、個々の考えに深まりや、思いが反映されているという充実感をもたせるようにする。</b>		
	5/16	○ 第5回計画委員会 ・話し合いカードの回収 ・意見の集約・分類 ・話し合いのシミュレーション	○ 再度回収した話し合いカードを確認することで、実際の話し合いの見通しをもたせるようにする。		

話し合い(本時)	5/18	○ 活動の目標や目標達成の方法・手段・役割分担を話し合ったり、確認したりする。	○ 話し合い活動を自主的に行わせる手立て ・話し合いの技能活用 ・話し合いの形態 ・発言の視点と教師のアドバイス	※本時を参照
事後の活動	実践	5/21 ～ 5/24	○ 実行委員会の設立 ・今後の活動の役割分担・準備 ・スケジュール ・活動名決定 ・各係で打ち合わせ	<b>関</b> 自分の役割を理解し、決められた日程までの見通しをもって計画的に準備活動を行っている。 (観察) <b>知</b> 計画委員会が準備・工夫してきたことや実践中における目標達成のそれぞれの役割を理解している。(話し合いカード) <b>知</b> 友達一人一人の役割や努力が分かり、皆で協力したら目標がよりよく達成されたと感じている。(観察)
	評価	5/25 ～ 5/29	○ 実際の活動 「学級旗を作ろう」(仮称)	
		○ 振り返り活動 ・振り返りカードの配布・記入 ・意見発表	○ 活動した場所で記念撮影を行い、達成感と有用感を味わえるようにする。 ○ 振り返りカードには、個人や学級の目標がどれだけ達成できたかを記入させることで、個人評価ができるようにする。	<b>思</b> 活動を振り返り、反省したことや学んだことを掲示するなど、今後の学級生活に生かそうとしている。(観察) <b>知</b> 友達同士で信頼し、支え合って活動したことで、学級の絆が更に深まったり、笑顔あふれ活気に満ちた学校になったりしていると感じている。(振り返りカード)
		○ 振り返りカードの掲示 ・意見交換 ・相互評価	○ <b>振り返りカードを掲示することで、友達との共通点や異なった視点、考え方を知り、他者理解や一体感を感じることをできるようにする。</b>	

## 7 本時の活動

### (1) 目標

「31人の思いが詰まった」という視点を持ち、自他の思いを大切にしたい意欲的な話し合いにしようとするができる。

### (2) 評価規準

- 共感的な態度で意欲的に話し合っている。 【集団の一員としての思考・判断・実践】
- よりよい学級や学校の生活づくりに向けて、教師の助言を受けながら、これまでの経験生かして考え、判断し、他者の立場に立って話し合っている。 【集団活動や生活への関心・意欲・態度】

### (3) 指導に当たって

本時の話し合い活動では、「歌」や「先生の話」の時間を設定し、雰囲気づくりや学級目標への思いを確認させることで、所属感や話し合いへの意欲を高めることから始めるようにする。また、話し合いに対する学級全体のめあてと個々のめあてをもたせることで、一人一人が課題をもって主体的に話し合いに参加できるようにする。

話し合いの始めには、**各グループによる学級旗に入れたいアイデアのプレゼンテーションを電子黒板を活用して行う**ことで、本時での話し合いの論点を明確にすると共に、学級旗作りへの意欲を高めるようにする。

司会者グループには、計画委員会での話し合いを基に、一人一人の意見を大切にしたり、**学級目標や提案理由と常に照らし合わせたりしながら進行させる**ことで、フロアと論点を外さず話し合いの柱に沿った積極的な話し合いができるようにする。教師は、司会者グループに対して、適時助言を行う。**フロアには、話し合いカードを机上に準備させることで、目標を常に振り返ったり、温めてきた思いを自信をもって発表したりすることができるようにする。**

話し合いについては、協力し合って進めるために、自分の思いの理由を明確にして話したり、友達の意見をうなずきながら共感的な態度で聞かせたりすることで、公平に判断し、集団決定ができるようにする。

振り返りでは、これまでの取組や本時の中での積極的な態度を称賛することで、実践への意欲付けを図るようにする。

**(4) 本時の展開**

第4回 4年3組学級会「のびろぐんぐん31のスマイルわかば会」5月18日(金) 司会【星原】副司会【萩原】書記【久保】黒板【浜田】【吉田】		
議題 「31人の思いが詰まった世界に1つの学級旗を作ろう！」		
提案理由 【山崎】 4年3組がスタートして、1か月が過ぎました。僕たちは、学級目標にあるように、一人一人がこの1年間で大きく成長することで31輪の花を咲かせようと頑張っています。この前の小運動会では、体育科の学習や朝の体力づくりでの練習の成果が出て、これまでよりも速く走ることができ、努力すればいいことがあるんだなと思いました。みんなもそうだと思います。そこで、これからのみんなの努力を応援するために、学級のシンボルである学級旗があればいいなと考えたので、今日は提案します。学級目標を実現するために、みんなの思いが詰まった学級旗のデザインにしましょう。		
話し合いのめあて 「みんなで協力し合って、納得できるデザインを考えよう。」		
	話し合いの流れ	予想される子どもの意識 ○手立て □めざす子どもの姿
1	はじめの言葉	○ 元気な歌を歌うことで、雰囲気づくりと話し合いへの意欲を高めるようにする。 ○ 「協力し合う」というめあてをもつことで、自分の発言を常に振り返り、集団決定の意識をもたせるようにする。 ○ これまでの経験や前回の話し合い活動の良かったところを誉め、話し合い活動の大切さに気付かせ、子どもの意欲を高めるようにする。
2	歌「手のひらを太陽に」	
3	司会者グループの紹介	
4	議題の確かめと提案理由の説明	
5	話し合いのめあてと柱の確かめ	
6	先生の話	
7	話し合い (1) 何を入れるか。  (2) どんなデザインにするか。	○ 自分の思いを大切にし、自信をもって話すことが出来るように、話し合いカードを机上に置いて、話し合いに参加するようにする。 ○ 話し合いを協力し合って進められるように、積極的な態度や友達を称賛する言動に対して、随時取り上げ称賛する。 関自分と同じ考えにうなずいて話し合いに参加している。 思発表者の思いや願いを代弁したり、さらに引き出したりする進行を行っている。 ○ 話し合いが建設的に進むために、電子黒板やホワイトボードで視覚的な情報を取り入れる。 ○ 話し合いの時間を調整したり、論点から外れたりしないように、教師が助言を行うようにする。 思教師の助言を受けながら、これまでの経験を生かして考え、判断し、他者の立場に立って話し合っている。
8	決まったことの確かめ	○ <b>自分たちで決めたことへの自信と、責任感をもてるようにするために、話し合いカードに感じたことを記入できるようにする。</b> ○ 個々で、話し合いを振り返ったり、他者の良い所を認め、称賛したりする時間をもつことで、自己肯定感をもたせるようにする。 思話し合いにおける自分のよさや課題を振り返っている。 ○ 本時の中で、良かったことや頑張った係の子どもをできるだけ多く誉めることで、実践への意欲を高めるようにする。
9	振り返り	
10	先生の話	
11	おわりの言葉	

